

科目名	健康回復を支える看護Ⅱ (周手術期)	対象学年・時期	2年・前期
講師	非常勤講師および専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	ここでは、治療を目的として医療施設に入院し、手術療法を受ける人々に対する看護を学習する。周手術期の看護については、「治療論Ⅱ」で学んだ手術療法および麻酔法の概要をもとに、周手術期にある対象の特徴を理解し、回復過程を促進する援助、形態や機能の変化に対する受容と適応を促すための援助、また不安や葛藤の軽減と意思決定の援助と理論についてわかるようにする。看護師は、手術の安全な進行のため手術前・中・後において患者の心身の状態を、的確に把握・調整し、チーム医療が効率的に行われるようコーディネーターの役割を担っている。このような特殊な環境下で行われる看護の実際について、手術室看護認定看護師の講義を通して理解を深める。また、術後は多職種専門医療職が協働し、回復過程を支えていることが理解できるようにする。		
授業形態	講義、演習、グループワーク、ロールプレイング		
学習目標	1. 術前・中・後を通しての体の変化を理解することができる 2. 術後の体の変化をアセスメントし、術前・中・後の看護がわかる 3. 発達段階や対象に応じた周手術期看護がわかる		
授業計画	1. 周手術期の看護 概論 術前看護 2. 手術侵襲と生体反応について 術後合併症のグループワーク 3. 術後合併症の病態生理と合併症予防に必要な看護…発表 4. 術中看護【認定Ns】 5. 特殊な環境下における術式と術後看護【認定Ns】 6. 術後看護① 術直後、術後1～2日目の看護 術後の疼痛コントロール、創部に影響する要因と創管理、ドレーン管理 7. 術後看護② 演習「初回歩行」に向けた準備 8. 術後看護③ 演習「初回歩行」 9. 術後看護④ 演習「弾性ストッキングの着脱、PCAの管理、創管理、ドレーン管理」 10. 退院に向けた看護① 形態機能の変化に対する適応への援助 グループワーク 11. 退院に向けた看護② 発表（ロールプレイング） 12. 【母性】帝王切開を受ける女性の看護 13. 【小児】手術を受ける子どもと家族の特徴と看護 14. 【老年】手術を受ける高齢者の特徴と看護 15. 終講試験		
使用テキスト	系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」第12版 池上徹・高橋則子 医学書院		
事前・事後学修	その都度指示します。		

評価基準および評価方法	筆記試験で評価する
備考	解剖生理学、病態生理学、病理学のテキストにも戻りながら事前・事後学修を行ってください。